

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4571700493		
法人名	社会福祉法人あさぎり福祉会		
事業所名	グループホーム朝霧		
所在地	宮崎県都城市山田町中霧島2531番地7 (電話) 0986-64-3811		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成20年11月28日

【情報提供票より】 (平成20年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人, 非常勤0人, 常勤換算7.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要(平成20年9月20日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	1	要介護2	3
要介護3	2	要介護4	1
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 86.2歳	最低 76歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山路医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雄大な霧島山系が望める静かで恵まれた環境の中にホームは立地している。併設の介護老人福祉施設、デイサービス等と連携して月に1回の勉強会や毎年の夏祭り、あさぎり祭等を開催し、地域との交流を深めている。運営者は人材育成に力を入れ、法人内・外の研修に職員を積極的に参加させ、心のこもった行き届いたケアが実践されている。また、評価に対する方針も前向きで、改善計画シートを作成してサービスの質の向上に熱心に取り組んでいる。利用者は職員の心のこもったケアに支えられ、家族ともども安心して元気に暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を踏まえて改善計画シートを作成し、運営理念の見直しや外出支援等具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、評価の意義や目的を職員会議で話し合いサービスの質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、行政の担当者、民生委員、家族の代表等幅広い立場の人が参加して、2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や懸案事項の対応、外部評価に対する取り組み等を話し合い、サービスの質の向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	介護相談員の受け入れや家族会を設け、家族の意見・不満が出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、意見箱を設置しているがあまり意見が出ない状況にある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、事業所が開催する夏祭りやあさぎり祭等での交流は行っているが、地域行事への参加・地元の人々との交流が少ない状況にある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念について職員全員で話し合い、これまでの理念を見直し、事業所独自の理念をつくりあげている。	○	全員で話し合い分かりやすい独自の理念となっているが、地域との交流をいかに推進するか、今後の課題として検討を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、ミーティングや職員会議で理念について掘り下げて話し合い、具体的なケアの実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、事業所が開催する夏祭りやあさぎり祭等での交流は行っているが、地域行事への参加等・地元の人々との交流が少ない。	○	立地条件もあって地域住民が少なく困難な面もあるが、できる範囲で地域住民との交流を図ってほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、評価の意義や目的を職員会議で話し合いサービスの質の向上に努めている。また、外部評価の結果を踏まえて、改善計画シートを作成し具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政の担当者、民生委員、家族の代表等、幅広い立場の人が参加して、2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や懸案事項等を話し合い、サービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者とは、運営上の課題や疑問点等について電話で相談できる関係が築かれている。また、介護相談員も受け入れ、その意見等を参考にしてサービスの質の向上に生かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族便りを発行して、利用者の近況や暮らしぶりをきめ細かに報告している。また、金銭管理は出納帳を作成して定期的に家族のサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れや家族会を設け、家族の意見・不満が出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、意見箱を設置しているがあまり意見が出ない状況にある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが、運営者は利用者のダメージを極力防ぐため異動や離職を最小限に抑える努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修には、できるだけ多くの職員が参加できるように配慮している。また、法人内で毎月勉強会が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会地区ブロック会に毎回出席して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	関連の介護老人福祉施設のショートステイやデイサービスからの入居者が多く、施設を利用しながら徐々になじめるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごしながら、料理の作り方や他人に対する思いやり、野菜の作り方等多くのことを学び、お互いの信頼関係を築きながら共に支えあう関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動や表情の中から、希望や思いを把握できるように努めている。また、家族からの情報も参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れ、本人や家族の意向や希望を反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6か月に1回定期的に見直し、状況の変化が見られる場合は随時見直しを行っている。	○	さらなる向上を目指して3か月に1回の見直しと、予防的な対応を含めて、月に1回程度は新鮮な目で本人や家族の意向や状況の確認を期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法事の時の送迎や通院、外泊等本人や家族の希望にあわせ柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの掛りつけ医を基本としており、定期的な受診のほか、気軽に相談できる関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、本人、家族、掛かりつけ医、その他関係者と早い段階から具体的な話し合いを行い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格や誇りを損ねることがないように、利用者の立場に立った丁寧な言葉かけや対応に配慮している。また、個人情報保護法の理解にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者と職員が話し合う「ニコニコ会」を活用し、一人ひとりの思いやペースにあわせ、その日の希望に沿って柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備をし、同じテーブルを囲んで、同じものを食べながら楽しく過ごしている。また、後片づけをしたり、おやつのおはぎを一緒に作っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回としているが、希望があればいつでも入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事前のあいさつ、掃除、後片づけ、洗濯たみ等、それぞれ一人ひとりの役割分担を決め、喜びや張り合いのある生活ができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には近くの温泉まで散歩をしたり、車で職員と一緒にスーパーに買物に出かける等、日常的に外出が多くできるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵を掛けていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回避難訓練を行っている。また、ホーム独自の災害対応マニュアルも作成している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量は、チェック表で毎日管理しており、利用者の好みや希望を取り入れたバランスの良い食事の内容となっている。管理栄養士の指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は全体的に適度の広さで、畳の間には掘りこたつがあり、玄関にはわらじや昔の釜が展示される等、家庭的な雰囲気があり利用者は安心して居心地良く暮らしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの家具やテーブル、使い慣れた日用品、家族の写真等が多く持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫されている。		

※  は、重点項目。